



『We♡鏡中』

令和7年 6月 3日

☆多生徒の何気ない言葉に感心しました

横断中の黄色い旗を持ち、登校道路に立っていると7割ほどの生徒と挨拶を交わすことが出来ます。全ての生徒と挨拶を交わすことが出来るようになることが目標です。「おはようございます」と挨拶しても、挨拶が返ってこない生徒が一定数いることが残念です。

そういった中で、いつもほほえましく見ているのが、小学校低学年の弟妹の手をひいて登校している生徒の姿です。先週、弟妹の手をひいて登校していた生徒に「おはようございます」と挨拶すると「おはようございます」と気持ちの良い挨拶が返ってきました。その時、小学校低学年の弟妹からは挨拶の声が聞こえませんでした。すると、中学生の姉が小さな弟妹に向かって「挨拶はきちんとしないといけないよ」と、幼い弟妹に向かって諭していました。怒るわけではなく、「諭す」という言葉が最も当てはまるような言い方で、小学校低学年の児童に言っているその言葉に感心しました。おそらく、本人は何気なく言ったのだと思いますが、あまりに自然にその言葉が出ていて、しかも、「諭す」ような言い方が素晴らしいと感じました。

小さな子どもは挨拶を交わすことの意義がわからず挨拶出来ないのですが、大人から教えられて出来るようになると思います。挨拶を交わす事が、当たり前になればと思います。

卒業するまでには、全員が出来るようになってほしいと思います。本当は今すぐ出来るようにと以前であれば思っていたのですが、「くまのこうちようせんせい」の絵本を読んでから、声に出せない子もいるかもしれないと思うようになりました。ただ、社会に出ればそう思っではもらえません。だから卒業までにはと…

「くまのこうちようせんせい」の絵本は、末期ガンと宣告されながら弱り行く自分の姿を子どもたちにありのままに見せ、命の尊さ、生きる意味を教え続けた神奈川県茅ヶ崎市の浜之郷小学校の校長・大瀬敏昭さんの姿を大瀬先生と交流のあったシンガーソングライター・こんのひとみさんと、絵本作家・いもとようこさんが大瀬先生の思いを絵本にされたものです。生徒には、手にとって読んで欲しい本です。

☆多健康診断を通して考える

健康診断が4月から続いています。その健康診断に臨む生徒に考えてほしいと思うことがあります。健康診断の際に、遅れてくる生徒、静かに出来ない生徒等、自分の都合を優先しようとする生徒が散見されます。引率教諭が言ってもなかなか言うことを聞かない生徒も…。

健康診断には、校医の先生方がきてくださっています。学校は、健康診断を実施しなければならないのですが、校医の先生方は義務ではありません。きてくださるのが当たり前ではないということを気づくことが大切だと思います。

先日、我が子が発熱・体調不良でかかりつけの内科に10時頃に受診しようとして事前に電話したところ（発熱していたので、電話を入れて受診しようとした）、「今日は午後から学校の検診があるので、受付をすでに断っています」と言われました。

もちろん我が家だけではありません。このことからわかるように、受診したいと思われている患者さんを断って学校にきていただいているということを、生徒にはわかって欲しいです。その事を気づけば、どのようにしなければならないかを考えて、行動することが出来ます。

お医者さんが疾患名を言われるのをきちんと聞き取って記載してもらうためには、静かにしなければなりません。順番が変わっていると確認の時間がかかります。患者さんをおいて、学校検診に来てもらっていることを、私は有り難いと考えています。「気づき 考え 行動する」ことがここでも必要だと思っています。